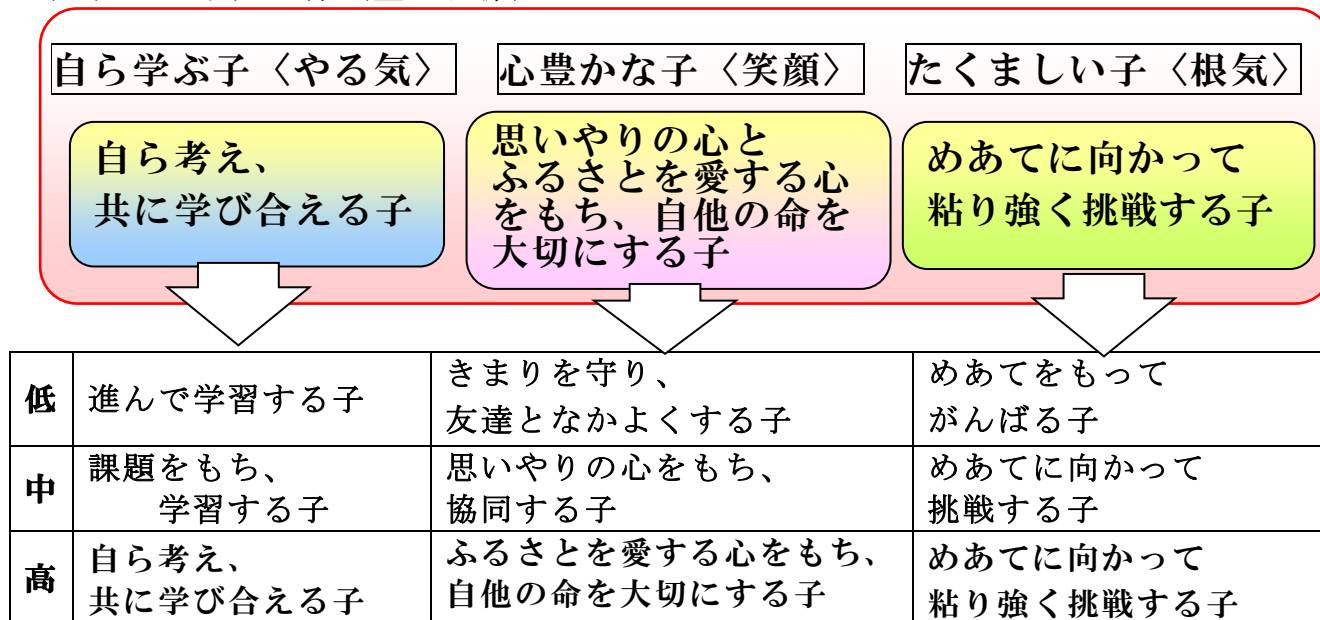


1 学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子の育成

(1) めざす児童像（重点目標）



(2) 目指す教職員像

- ① 誠実で礼儀正しく、児童、保護者、地域から信頼される教職員
- ② 地域を理解し、子ども一人一人の心を見つめる教職員
- ③ 子どもを伸ばす使命感を持ち、自己研鑽に励む教職員

(3) 目指す学校像

- ① 安心・安全で、地域に開かれた信頼される学校
- ② 子どもも教師もやりがいを感じる、清潔で活気のある学校
- ③ 児童の笑顔と笑い声があふれる学校

2 学校経営の方針

- (1) 千葉県及び旭市教育委員会の学校教育指導の指針に基づき、知・徳・体のバランスのとれた教育課程を編成し、児童主体の教育活動の展開に努める。
- (2) 保護者や地域の期待を踏まえ、ふるさと教育の推進により「信頼される学校づくり」「地域と共に歩む学校づくり」の推進を図る。
- (3) 「古城っ子はよくあそべ」プランを全職員と児童が理解、実践することを通して、目指す学校像の実現に迫る。
 - ◆ 「ふるさと教育」並びに「「古城っ子はよくあそべ」プランについては、後述する。

4 学校教育目標具現化のための重点項目

(1) 『確かな学力』を育む

① たえまない授業改善

学習習慣の確立

・ 授業規律「ぐう ぺた ぴん サッ」 ・発表に仕方の活用

主体的・対話的で、深い学びの実現に向けての学びの過程の充実

・ 主体的な学び【意欲の持続】課題設定・振り返り・次の課題

・ 対話的な学び【言語活動・体験活動】協働・対話・自己の考え方を発信

・ 深い学び 【習得・活用そして探究へ】新たな問い・考えの再形成

※ 主体的・対話的で深い学びの実現のための授業づくり評価シートの活用

(H30 市校長会研修部作成)により、教師自身が意図的に授業を振り返る

② 体験的な活動の充実（ふるさととの教育の推進・総合的な学習の時間）

社会科見学（大原幽学記念館、市内商業施設など）

栽培体験学習（田植え・稲刈り、サツマイモ栽培、草花栽培）

※ 高校との連携 食育活動支援事業

古城地区社会福祉協議会との連携行事

③ 読書活動の充実

読み聞かせボランティア・図書館司書の活用

読書カードの活用と読書がんばり賞の授与

④ 基礎的・基本的な学習活動の定着（漢字検定・計算検定）

⑤ 家庭学習の習慣化

自学ノートの活用 「家庭学習の手引き」の配付

学級便りへの学習進度と家庭学習のヒント掲載

(2) 『思いやりのある豊かな心』を育む

① 特別な教科「道徳」の授業の充実と研修

道徳ノートの活用と評価（校内研修）

保護者参観での道徳授業展開

② 道徳の時間や体験教室、行事等の学校公開による家庭、地域との連携

いのちを大切にするキャンペーン（道徳授業公開）

いのちの輝き教室

③ 社会貢献を意図した体験活動の実施（特別活動の充実）

花いっぱい活動（学校・地域・こども110番の家）

小さな親切運動（親切の木・あいさつ運動）

長熊スポーツ公園の清掃活動

④ いじめ防止対策の充実（生徒指導の充実）

いじめ防止アンケートの実施・教育相談の充実

相談ポスト、相談窓口の周知・活用

子ども情報の共有化（打合せ・職員会議）

⑤ ふるさとを愛せる児童の育成

- ふるさとの人材・古城の自然を生かした授業・体験活動
- 縦割り活動の充実「みんなで遊ぼうDay」「ランチルーム給食実施」
- 古城っ子フェスタを通しての地域交流の充実

(3) 『健やかな体』を育む

- ① 体力向上委員会を中心とした体育活動の充実
 - 正課時体育の充実（体力向上計画）
 - 特別授業の実施
 - ・ダンス教室
 - ・縄跳び学習
 - ・遊・友スポーツランキングちばの活用（投力の向上）
 - 業間活動での体育的活動の充実（マラソン練習・長縄大会など）
- ② 学校保健・学校安全に関する学習活動の充実
 - いのちの輝き教室
 - A E D教室【再掲】
 - 学校保健委員会の開催
- ③ 食育の推進
 - 栄養教諭を活用しての学習指導（学級活動・家庭科・給食指導）
 - 給食指導の充実
 - 栽培体験学習【再掲】

(4) 『望ましい勤労観・職業観』を育む

- ① 働くことの意味や楽しさがわかる指導の工夫
 - ゆめ・仕事びったり体験
 - 社会科見学・ふるさと教育【再掲】
- ② 自分の将来の夢や希望を思い描くことができる指導の工夫
 - 「誓いの言葉」始業式、「学期を振り返って」終業式
 - 全校集会での児童による発表

(5) 『グローバル化に対応した教育』を進める

- ① 地域の歴史・伝統文化等の理解、継承
 - 歴史学習（6年生）
 - 地域学習（4年生）【再掲】
- ② 語学力・コミュニケーション能力等の育成
 - 外国語活動・外国語授業の充実と研修
 - 中学校英語教諭による特別授業

(6) 『地域とともに歩む学校づくり』を進める

- ① 学校情報の積極的な発信
 - 地域への学校便りやお知らせ等の回覧
 - HPによる情報発信
 - 行事・授業の公開（学校公開）
- ② 地域の教育力を活かした教育の推進【再掲】
 - お年寄りとの交流会
 - 古城っ子フェスタ（学校開放）
 - 歴史学習、地域学習、栽培学習等での地域講師を活用
 - 花いっぱい活動（地域）
 - グランドゴルフ教室
 - 小さな親切運動（親切の木、あいさつ運動）

(7) 『安全・安心な学校づくり』を進める

①事故防止のための施設・設備の管理、営繕の徹底

- 複数の職員による日常的な点検と素早い報告、修繕 環境美化

②安全教育の徹底と危機管理体制の確立

- 学校安全の日（登校指導・ワンポイント避難訓練・安全点検）
薬物乱用防止教室（5・6年生）
危険を予測し自らを守る防災教育の充実
防犯、交通安全教室（避難訓練の工夫等）
子ども110番の家の確認（児童、教職員）
スマホ・ケータイ安全教室 AED教室【再掲】

（8）『一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育』を進める

①個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた特別支援教育の充実

- 外部講師を招いての特別支援教育研修会

②家庭・地域及び関係機関との連携の推進

- 特別支援アドバイザーの活用
医療連携（担当医、担任、保護者等）の実施

（9）チーム古城・オール古城を合言葉に、職員のモラルを高め、より良い働き方を考える

①出退勤時刻を記録し、自分の働き方を自分自身が知る。

- ICTを利用した出退勤記録の実施
残業時間2時間以内、月45時間以内にする。
モラルアップ研修を通して、働きやすい職場づくりを推進する。

②校務分掌の見直しと効率化を図る。

- 校務分掌の平均化により、一部の職員に負担が集中しない組織づくり
必要に応じた校務分掌の見直し

5 ふるさと教育

ふるさと教育を本校の特色ある教育として考える。

（1）目 標

- ① 人との関わり合いを通して、ふるさとのよさに気づき、そのよさを地域の方と共有し、ふるさとを愛する児童、ふるさとの大切さを実感できる児童を育てる。
- ② 自然体験活動やふるさとの産業や歴史、環境についての学習、また、先人の生き方を学ぶ学習を通して、ふるさとに対する理解を深め、親しみと豊かな心を育む。

（2）ふるさと学習で目指す児童像

- ① ふるさとの「ヒト」「モノ」「コト」に積極的に関わろうとする子
- ② ふるさとの「ヒト」「モノ」「コト」の大切さに気付き、その価値を他者と共有し合う子

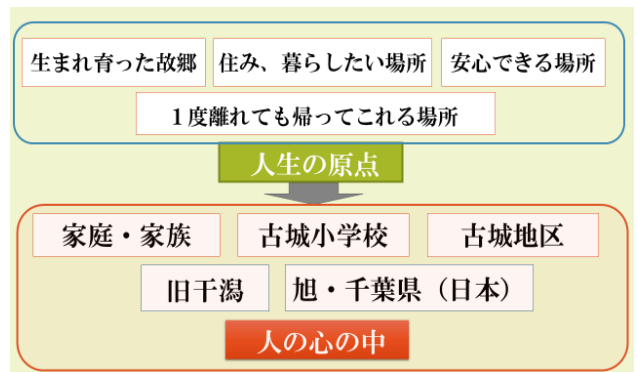
③ ふるさとを理解し、ふるさとを愛する子

(3) 「ふるさと教育」の捉え方

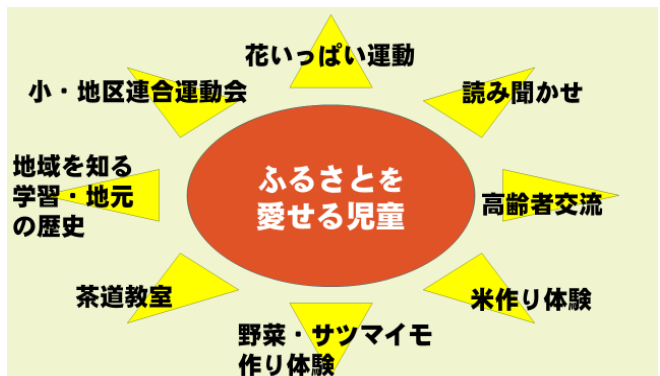
「ふるさと」という言葉を「人生の原点」として広く捉え、学習の広がりや古城地区だけでなく、右図のように抑える。

(4) ふるさと学習の実際

常に「地域」を対象にし、地域の「ヒト」「モノ」「コト」を学ぶ学習とし、学校の教育活動すべてを対象として取り組む。また、JAちばみどりや社会福祉協議会、大原幽学記念館など、地元団体



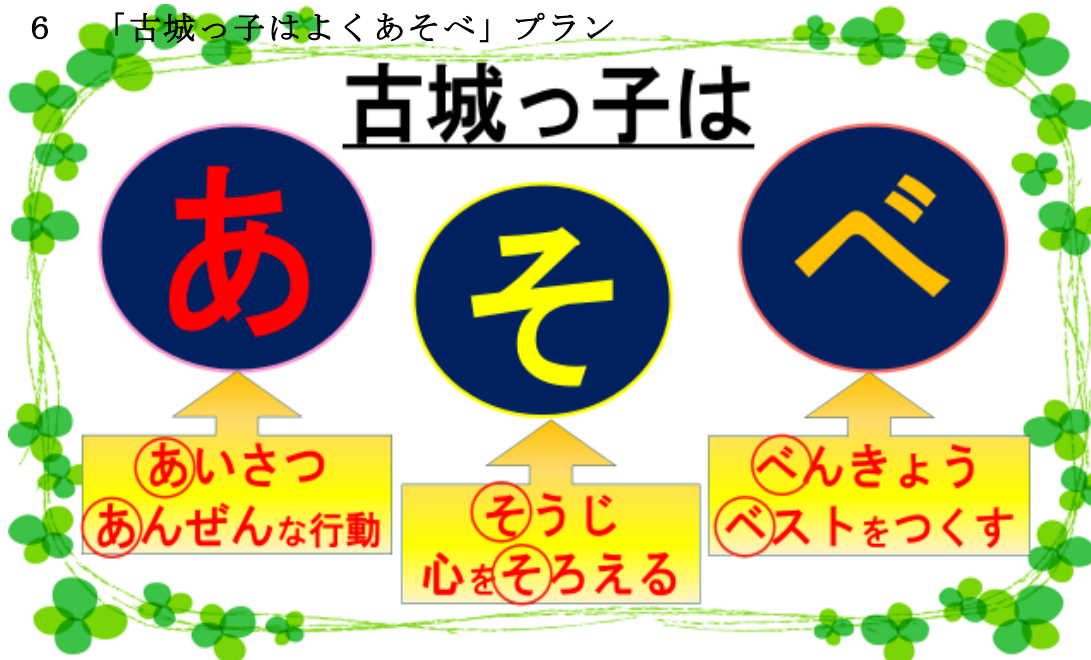
- 家庭・家族とかかわる学習
- 地域に出かけて学ぶ学習
- 地域の人とかかわる学習
- 古城小・古城地区の歴史を学ぶ
- 地域の企業・施設・史跡を取り入れた学習
- 地域の特色(良さ)を知り考える学習
- 地域の文化を体験する学習
- 地域と協同する学習



や地元記念館とも協力して、学習を効果的にすすめるようにする。

古城小学校で展開される学習には、既に「ふるさと」との関わりを取り入れたものが多くある。改めて「ふるさと教育」という視点から学習を見直し、そこから児童にどんな力をつけていくのか、体験を発展させ学習のゴールをどこに置くのか、整理する必要がある。また、「ふるさと学習」に結びつけることで、地域教材として学習の深まりが期待できる教科や単元も少なくない。ふるさと学習を教科横断的な学習としてとらえ、その学習を全校で取り組んでいく。

6 「古城っ子はよくあそべ」プラン



学校教育目標の実現のために、児童と教職員が共通の具体目標として、みんなで取り組む活動を「古城っ子はよくあそべ」プランとして捉える。